

爆走坂東組日記

2006



おう、1カ月の無沙汰だったな。

この5月は五月晴れの前にもう梅雨入りしたんじゃないかと思うぐらい天気が悪かったが、オレの心も土砂降りだ。何たって、勝ちを確信したレースを落とすってんだからな。まあ今回は、そのレースのことを聞いてくれや。

富士の第3戦は、毎年恒例の500kmレース。ウチはもう行く前から1ストップ作戦で行くって考えてた。去年もそれが上手く行ったからな。

ところが、練習走行日は雨が降るわ霧が出るわで、タイヤのライフ確認もできないうえ、決勝想定での燃費も確認できなかった。燃料の吸い残しがどの程度あるか、そこから満タンにした時にどれだけ燃料が入るか。そのへんも確認したかったんだけどな。まあ、それは他チームも同じ条件だったから仕方ない。でもホントに1ストップが上手くいくかどうか、不安は残ったよな。

予選では1回目にタイムアタックをしたが、その時点でスーパーラック

ブは諦めた。ウチは決勝想定でハードタイヤを選んでたし、一発のグリップが足りないのは分かっていたからな。だから、残った時間は満タンでのレースセットに費やしたんだ。そこで燃費は何とかギリギリのカツカツだがもつんじゃないかと確認できた。タイヤももちそうだと分かったんだが、ロングをかけていないので、後半のタイムの落ちがどれぐらいかというの、予選が終わった時点でもまだ分からなかった。

そこで決勝日の朝にもう一度満タンで確認したんだが、この時タイム的には1分44〜45秒台でコンスタントに走れて、ほかのクルマのタイムともそれほど大きくは違わなかったんだよ。これなら何とかなんじゃないかと思っただけ。ウチは1ストップ作戦の分、75秒マージンを得られる計算。それを周回数で割ると、2ピットのマシンに対して、1周あたりコンマ7秒落ちなら勝負になるって計算が成り立ってたからな。

そして、いざレースがスタートす

ると、松田はトップ

と遜色ないタイムで走ってくれて、順調に進んでいった。あとは、何周でピットインさせるかというのが鍵だったんだよな。GT500は110周でゴール。そうすると大体GT300のトップは102周だとオレは読んだ。そうすると1ストップの場合、50周じゃ足りない。願望としては52周まで行っと思ってた。ところが、ちょうど50周ぐらいで燃料消費量を聞いて、少しキツくて「ヤバイ」って感じだったんだよ。だから、その後は無線で何も聞かなかった。ピットインのサインを出してから、かなり不安な1周を過ごしたよ。最終コーナーの方を見ながら、エンジンが吹けない、とか言わずに上がって来いって念じてた。そしたら、松田が何とかもたせて帰ってきてくれて、ホッとした。この時、見た目上のトップで、シゲがコースに戻った時も6番手。いざシゲが走り始めると、どうもペースが安定しなかったんだが、ほかはみんなもう1回ピットに入らなきゃならないって分かっていたから、それでも何とか耐えようと思っていた。70周を超えたところで、最低でも20秒のマージンを作って優勝できるって確信したね。



予選日のキッズウォークで、今年、ウチのチームに華を添えてくれるレースクイーンの3人と一緒に。

ところが、メインストレートで突然前のクルマが跳ね上げたタイヤがすのボールが飛んできて、ウチのフロントガラスを直撃。さらにその数周後には、どうもトルク不足だったのか左フロントタイヤが脱落と、次々に信じられないトラブルが出た。やっぱりゴールするまでは、勝てるなんて思っちゃいけない。

その後は、クルマを直して走らせただけ、ホントにガッカリ、どんよりって感じだった。

でも、そのガッカリの分、次のセパンではリストラクターも一ランクアップの救済を受けるし、今のクルマの状態ならドライバーの体力さえ持てば上位を狙えるんで、まあ見てくれや。

GT300 Race Report

今季初優勝を確信するも、好事魔多し。マシントラブルで万事休す

ゴールデンウィークの最中、5月3〜4日に8万5000人の観客を集めて行なわれたSUPER GTの第3戦。決勝を想定してハードタイヤを選んでいったウェッズスポーツレーシングチームwithバンドウは、17番グリッドからのスタートとなった。

決勝では、スタート直後の1コーナーで3台が絡むアクシデントがあり、ウェッズスポーツは13番手に浮上。2周目にはトップを争っていた2台が接触。これにも乗じて11番手に上がると、スタートを担当した松田晃司がさらに順位を上げていく。そして35周を過ぎ2回のピットストップを予

定していたチームが続々とピットインする中、1回ストップのウェッズスポーツは43周目、ついにトップに立った。2番手には、ウェッズスポーツ同様1回ストップのTOY STORY RacingのMR-Sが続くが、50周時点での差は42秒に広がっていた。

そして53周目にピットイン、後半を担当した脇阪薫一も少しずつポジションを上げ、4番手にまで回復するが、73周目、フロントガラスが割れ、左フロントタイヤの外れたマシンがピットへと滑り込んだ。応急処置を施し、コースへと復帰するが万事休す。17位での完走となった。

GT300 Race Result Round 3

5月4日 晴れ/ドライ 富士スピードウェイ
4.563km×102周=485.429km 参加台数41台・出走台数41台・完走台数38台

順位	総合順位	No.	ドライバー	マシン	タイヤ	周回数	ベストタイム	予選/タイム
1	13	62	松田晃司/八木宏之	WILLCOM ADVAN VEMAC408R	YH	102	1'44"761	4/1'43"068
2	14	101	新田守男/藤本真一	TOY STORY Racing MR-S	MI	102	1'45"351	18/1'44"381
3	15	14	木下みつひろ/篠尾泰輔	パシフィックエントレスポルシェ	HK	102	1'44"846	7/1'43"794
4	16	2	高橋一樹/加藤健一郎	Prodrive Zynch・アップル・電気	YH	102	1'44"849	11/1'43"690
5	17	87	山崎隆一/山崎隆一	トヨタ・MR-S	RG-1	YH	1'44"166	19/1'44"591
17	28	19	松田晃司/脇阪薫一	ウェッズスポーツセリカ	YH	93	1'45"061	17/1'44"352

・ベストラップ: No.13 山崎正美 1'43"478